



1/震災復興祈念式典にもぐらんぴあ応援団長のさかなクンが、手書きで寄せた「久慈けない心」のメッセージ 2/犠牲者を追悼し、献花を行う参加者 3/3.11キャンドルナイトで、1つ1つろうそくに明かりを灯す子どもたち 4/久慈を襲った津波高、14.5mを参考に設計されたケルンの塔の前でろうそくで絆の文字を作り、平和を祈る参加者

震災から15年

あの日を忘れない

東

日本大震災発生から15年目の3月11日、震災復興祈念式をアンバーホールで挙行之、約200人が犠牲者を追悼し、復興へ思いを新たにしました。式では一時避難場所として長内町の自社ビルを開放したNTT東日本株式会社岩手支店に感謝状を贈呈。もぐらんぴあ応援団長のさかなクンは、水族館再建を振り返り「どんなことがあってもくじけない久慈の皆さんの力強さ、素晴らしさを感じました」とあいさつし、市の復興や魅力発信へ協力していく決意を込めた、手書きのメッセージを披露しました。

久慈青年会議所は、3・11キャンドルナイト「鎮魂の祈り」をJC公園で開催しました。当時、消防職員として現場対応に当たった、市防災危機管理課の大粒来輝行さんが当時の被害状況を紹介。家族に震災の話を伝え、1日1日を大切に過ごしてほしいと呼びかけました。参加者はキャンドルに明かりを灯し、平和を願いました。

令和7年度久慈市男女共同参画推進講座

無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に気づき、誰もが認め合う社会を目指して

2月28日、男女共同参画推進講座を市役所で開催し、約80人が参加しました。

第1部は、株式会社商工組合中央金庫の小池愛美氏が講演。参加者は1枚の絵が人によってウサギに見えたり鳥に見えたりする体験を通し、無意識の思い込みが誰にでもあること、「普通」の基準は人それぞれ異なると気づき、それぞれの価値観を認める大切さを学びました。

第2部では、岩手ライフキャリアラボの後藤大平氏が、家庭や地域の偏見に触れ、互いに話し合う重要性を伝えました。参加した黒沼亮太さんは「感情的になる前に1回立ち止まり、相手の立場を見つめ直すことが大切だと気づかれました」と思いを語りました。



講師の問いかけに考えを語る参加者



身近な課題から男女共同参画を伝える後藤講師



広報くじは月1回発行になります

これまで毎月1日と15日に発行していた広報くじは、次回発行号から毎月1回、15日の発行になります。

広報くじは市HPのほか、マイ広報誌、スマートフォンアプリ「マチイロ」でも閲覧することができます。バックナンバーは市HPから確認ください。

